

県内高校生 英語で伝える力競う 長野でコンテスト

清泉女学院大・同短大（長野市）は26日、「第17回県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト」を同大キ

松本秀峰・三代沢さん、長野・田中さん優勝
ヤンパスで開いた。3年ぶりの開催で、県内10校の18人が出場。課題文を暗唱するレシテーション部門と、「新型コロナウイルス感染拡大の影響から学んだこと」をテーマに自分の意見を伝えるスピーチ部門があり、表現力の豊かさや発音の正確さを競った。

6人が出場したスピーチ部門は、新型コロナウイルスの感染拡大で起きた変化が「進化か退化か、自分たちの手に委ねられている」と訴えた松本秀峰中



スピーチ部門で優勝した松本秀峰中等教育学校の三代沢さん

等教育学校5年（高校2年）の三代沢咲さん（16）が優勝。多くの制限がかかった学園祭で困難を乗り越えた経験から「できることを見つけてよ」とする過程に最も価値があり、やりがいがある」と力強く語った。

レシテーション部門は長野高校1年の田中きりな弓さん（15）が優勝。取材に、身ぶり手ぶりなどを挙げて「どうすれば人に伝わるかを考えて練習した。優勝できてうれしい」と話した。